

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100618		
法人名	株式会社 悠遊社		
事業所名	グループホーム エーデルワイス		
所在地	香川県高松市高松町2160-1		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町受理日	令和5年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリをしっかりと行い、入居者の心身機能の維持向上に力を入れている。 ・主治医・訪問看護職員と密に連携し、入居者が入院することも無く、元気に過ごせている。 ・入居者が元気になって家族がとても喜んでくれている。 ・コロナ禍でもできる範囲で家族と連携を取り、入居者と家族の絆が維持できるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>交通の便が良い国道脇にありながら、中庭に入ると静寂で、明るい外装の2階部分に事業所がある。地域の拠点にも近く、医療機関も多い。同じ建物に同一法人の他事業所もあり、協力した運営も行われている。</p> <p>管理者・職員は利用者や家族等とよく話し合い、希望をよく聴き取っている。事業所では利用者の安全な生活と健康に関して、力を注がれており、医療との連携、リハビリの実施等を通じて、体力の維持・向上に努められている。</p> <p>クラブ活動等も活発で、元気で明るく、特技を活かした指導できる職員も多く、利用者に活気ある生活の提供に繋がっている。</p>
--

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で理念の唱和を実施している。理念の共有は出来ているが、実践につなげていない時もある	『寄り添い待つ介護』の理念は継承され、職員間で共有されている。理念は日々の実践に活かされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でできていない	地域とのイベント等情報は交換されているが、コロナ禍で参加するような実施には至っていない	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響でできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に実施しているが、コロナの影響で家族・行政は参加できていない。事故やヒヤリハットの状況等については、会議中に職員間で意見を出し合い、即対応している	運営推進会議は2ヶ月毎に実施できている。外部の参加者には文書で発信されている。事業所が取り組んでいるヒヤリハットや事故対策等の安全性に配慮した実践は成果が見られている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常時不明な点があれば、管理者が市町村と連携を取っている。令和4年2月のコロナクラスター発生時には高松市介護保険課・長寿福祉課と密に連携を取り対応できた	包括支援センター職員や市役所の関係機関を通じて、事業所の実情や取り組みが報告されている。緊急時には連携して対応していることで、協力関係が出来ている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りができない時のみ玄関の施錠をしているが、その他身体拘束者はいない。身体拘束に関する研修は年2回及び新規採用時、拘束委員会は毎月実施している	身体拘束をしなければならない方はいないが、ケアの中で身体拘束に該当する行為や影響については毎月委員会や定期的に職員研修を行い、しないケアの徹底に取組まれている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する施設内研修を年2回実施し、虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度に関する知識がある。現在後見人制度を利用している入居者が居るが、新たに必要と思われる対象者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時と改定時は、管理者が契約者に十分な説明を行い同意を得て署名捺印していただいている。解約時には十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の状態や状況が変化した時等、家族と密に電話で連絡しており、意見や要望を聴く機会になっている。対応できる事に関しては即対応している	家族等の面会が制限された中では、月1回の写真や担当者からの手紙などの定期郵便物や電話での連絡が中心となっている。限られた機会ではあるが、本人や家族の話をよく聴き取り前向きに検討がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティング実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。できる範囲で運営に反映させている	管理者は職員の意見を聞く機会を設けて、提案や意見が活かせるよう配慮されている。また、職員の特技などを業務に反映させている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の声を代表者に伝える機会が無い。作って欲しい。令和4年10月からキャリアパス導入されたので、今後に期待したい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回施設内研修を実施しており、職員のスキルアップを図っている。外部研修はできていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響もあり、同業者との交流は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時点で本人の主訴を聴き取っている。入居後は本人に確認しながら、本人の意思に沿ったケアを提供することにより、安心できる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面談し、家族の要望を聴き取る。詳しく説明し、不安が無いよう配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急避難的な入居を実施した後、毎日自宅への外泊実施しながら、ショートステイ等サービスの利用を考慮した経緯がある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居者のできる事を探し、洗い物やテーブル拭き・洗濯物たたみを職員と一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で難しいが、家族と頻りに電話や玄関先面談実施している。家族に入居者の状況を伝え、一緒に何が必要か考え差し入れてもらうことで、家族との絆を維持している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出や面会は出来ていないが、毎月の請求書発送時に、入居者の写真と担当職員からの一筆箋を送付し、関係が途切れないよう支援している	コロナ禍でも、毎月の定期便として利用者の写真や担当者の一筆箋を同封して、家族に元気な様子を伝えていることで、家族等の安心につながっている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わっている時は過度に干渉せず側で見守りを実施している。日常的に支え合える関係性がある入居者が数名居る		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後の支援について伝えられているが、家族から希望が無く、また施設からも連絡していない		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後は意見の言える入居者には意見を聴き、困難な場合は表情や様子を伺いながら支援している	入所前に利用者の状況を本人や家族等に聞き取っている。入所後も希望や要望を聞き、困難な場合も表情や様子から職員間で話し合い思いの把握に努められている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人や家族から生活歴や暮らし方への希望等を聴き意向を把握し、職員に周知している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者の行動や発言・表情で一人一人の有する力の現状を把握している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人・家族の意見を踏まえ介護計画案を作成している。職員間で協議後実施しているが、主治医の意向が聴けていない	介護計画は定期的に見直しが行われ、関係者の意見、意向も合わせた計画案を作成、本人や家族に説明し同意を得た上で実施がなされている。更に、協力の輪を拡げ、本人の意向や現状に即した介護計画作りが目指されている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践状況を個別に記録し、職員間で情報の共有ができています。モニタリング時に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズが多くなり訪問看護を導入した。その他本人や家族の状況の変化による新たなニーズに関しては、全て施設内で対応ができています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でできていない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本では協力医院がかかりつけ医となるが、家族の希望に添い、その他の医院がかかりつけ医になっている入居者がいる。ネット上でかかりつけ医と情報を共有するシステムを利用している	本人や家族等の希望でかかりつけ医が決められている。協力医院との連携が良いためかかりつけ医となる利用者が多い。医療の情報交換はネットでシステム化もなされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来た時、介護職員が口頭にて、入居者の日々の様子や気づきを伝えている。必要な場合は訪問看護師から主治医に連絡し、受診等行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー作成し医療機関に情報提供を行っている。入院時や退院については、管理者が医療機関担当者と電話で情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が、契約時に重度化の指針の説明を行い、家族に署名捺印を貰っている。入居者の状態の変化があれば、その都度家族に説明し、意向を伺って対応している	入所時から重度化や終末期について話し合われ、事業所でできることも説明されている。また、利用者の状態の変化に伴い都度ご家族やご本人の意向が確認され、方針の共有と協力関係が築かれている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての研修を行った。急変時の対応方法や救急車への対応方法を判りやすく表示し詰所に置いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修を実施した。コロナ禍で、地域消防団と合同の訓練は実施できていない	同じ建物内の他事業所と共同で防災対策を練り、防火避難訓練を年2回行っている。訓練では、イベント時に地域消防団や地域住民の参加協力は要請がなされている	コロナ禍の現状では大掛かりな訓練は難しい状況であるが、現在声掛けられている地域消防団や住民も参加者した訓練の実現が望まれる

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴のプライバシーを守る為の環境は整備されているが、職員の意識が低くプライバシーが守られていない時がある		一人ひとりに合わせた言葉かけを行い、利用者の生活のペースを大切に守る事を常に意識した支援がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を言える入居者については自己決定できるよう働きかけているが、すべての入居者が希望を言えるような環境作りが出来ているとは言えない			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先されがちになっている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護計画で服を選ぶことになっている入居者が複数いるが、毎回は実施できていない			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回昼食づくりを実施し、職員と入居者が一緒に調理し、食事を楽しんでいる		納品業者は適温の食事を提供し、栄養管理も出来ている。月2回は利用者と職員と一緒に食事作りを行い、利用者は出来ることに挑戦している。利用者は家事の一部として役割を意識している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時全員分の食事・水分摂取量を記録している。毎週水曜日体重測定実施している。体重減少があれば対応策を立てて実施している。ムース食や粥ゼリー等嚥下状態に応じた食事を提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。歯科医・歯科衛生士の居宅療養管理指導利用している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録している。排泄パターンを掴むのは難しいが、自立支援を行い日中オシメ使用せず排泄できる入居者が増えた	排泄の記録を基に排泄のパターンや支援方法を把握し、トイレでの排泄が促がされている。適切な支援により、おむつの利用は減少している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べている入居者がいる。全ての入居者に水分摂取を促している。便秘時は緩下剤使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴曜日が決まっているため希望には添えていないが、機械浴やリフト浴使用や入浴剤の使用等、個々の身体状況に応じた入浴が出来ている	利用者の入浴日は曜日で決められており、個々の希望には十分には添えていない。入浴時には入浴剤やお湯の温度を利用者に合わせ調整する配慮がなされている。また、入浴できないときは清拭や足浴等も実施されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間居室から入居者が何度も出て来る。居室の環境が落ち着かないのではないかと推測される		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局の居宅療養管理指導利用し、一包化等薬を管理している。薬の変更などは、連絡ノートで情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する力に応じて家事(テーブル拭き・食器洗い・洗濯たたみ・お膳拭き)等を行うことで役割意識を持ってもらい生活にメリハリができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で遠方への外出は出来ていないが、敷地内散歩は出来ている	外出が制限される中で、近くで散歩や外気浴、建物内では体力維持のために運動や体操などを出来る事を工夫しながら継続されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失のこともあり、原則金銭は所持してはもらっていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成し郵送している。家族の都合もあり、電話の支援はできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた展示品や装飾品を飾っている。トイレは分かりやすく表示している。ジアイノ設置しウイルス感染対策をしている	2階エレベーター前のエントランスが明るくて広い。窓際には季節ごとの展示品や合同作品が飾られている。消毒器や加湿器を導入し感染症の予防にも配慮されている。利用者は車いすや歩行器の利用者も居心地よく過ごせている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥日当たりの良い場所にソファを置き、人気スポットになっている。自分で動ける入居者は好きな場所に移動して過ごせている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇がある入居者が数名いる。タンスや家具は使い慣れたものを持って来てもらっている	居室にはベランダがあり、花を育てている方もいる。室内は明るく、ベッドを置いてもゆったりしている。自分の好みの物を飾り、それぞれに落ち着いた空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーである。廊下・風呂場・トイレ等必要な場所に手すりがある。ユニット間は自由に行き来できるようになっている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で理念の唱和を実施している。理念の共有は出来ているが、実践につながっていない時もある
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でできていない
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響でできていない
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に実施しているが、コロナの影響で家族・行政は参加できていない。事故やヒヤリハットの状況等については、会議中に職員間で意見を出し合い、即対応している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常時不明な点があれば、管理者が市町村と連携を取っている。令和4年2月のコロナクラスター発生時には高松市介護保険課・長寿福祉課と密に連携を取り対応できた
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りができない時のみ玄関の施錠をしているが、その他身体拘束者はいない。身体拘束に関する研修は年2回及び新規採用時、拘束委員会は毎月実施している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する施設内研修を年2回実施し、虐待防止に取り組んでいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度についての知識がある。現在後見人制度を利用している入居者が居るが、新たに必要と思われる対象者はいない
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時と改定時は、管理者が契約者に十分な説明を行い同意を得て署名捺印していただいている。解約時には十分な説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の状態や状況が変化した時等、家族と密に電話で連絡しており、意見や要望を聴く機会になっている。対応できる事に関しては即対応している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティング実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。できる範囲で運営に反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の声を代表者に伝える機会が無い。作って欲しい。令和4年10月からキャリアパス導入されたので、今後期待したい
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回施設内研修を実施しており、職員のスキルアップを図っている。外部研修はできていない
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響もあり、同業者との交流は出来ていない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時点で本人の主訴を聴き取っている。入居後は本人に確認しながら、本人の意思に沿ったケアを提供することにより、安心できる関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面談し、家族の要望を聴き取る。詳しく説明し、不安が無いよう配慮している
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急避難的な入居を実施した後、毎日自宅への外泊実施しながら、ショートステイ等サービスの利用を考慮した経緯がある
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居者のできる事を探し、洗い物やテーブル拭き・洗濯物たみを職員と一緒にしている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で難しいが、家族と頻繁に電話や玄関先面談実施している。家族に入居者の状況を伝え、一緒に何が必要か考え差し入れてもらうことで、家族との絆を維持している
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出や面会は出来ていないが、毎月の請求書発送時に、入居者の写真と担当職員からの一筆箋を送付し、関係が途切れないよう支援している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わっている時は過度に干渉せず側で見守りを実施している。日常的に支え合える関係性がある入居者が数名居る

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後の支援について伝えているが、家族から希望が無く、また施設からも連絡していない
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後は意見の言える入居者には意見を聴き、困難な場合は表情や様子を伺いながら支援している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人や家族から生活歴や暮らし方への希望等を聴き意向を把握し、職員に周知している
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者の行動や発言・表情で一人一人の有する力の現状を把握している
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人・家族の意見を踏まえ介護計画案を作成している。職員間で協議後実施しているが、主治医の意向が聴けていない
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践状況を個別に記録し、職員間で情報の共有ができています。モニタリング時に活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズが多くなり訪問看護を導入した。その他本人や家族の状況の変化による新たなニーズに関しては、全て施設内で対応ができています

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でできていない
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本では協力医院がかかりつけ医となるが、家族の希望に添い、その他の医院がかかりつけ医になっている入居者がいる。ネット上でかかりつけ医と情報を共有するシステムを利用している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来た時、介護職員が口頭にて、入居者の日々の様子や気づきを伝えていく。必要な場合は訪問看護師から主治医に連絡し、受診等行っている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー作成し医療機関に情報提供を行っている。入院時や退院については、管理者が医療機関担当者と電話で情報交換を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が、契約時に重度化の指針の説明を行い、家族に署名捺印を貰っている。入居者の状態の変化があれば、その都度家族に説明し、意向を伺って対応している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての研修を行った。急変時の対応方法や救急車への対応方法を判りやすく表示し詰所に置いている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修を実施した。コロナ禍で、地域消防団と合同の訓練は実施できていない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴のプライバシーを守る為の環境は整備されているが、職員の意識が低くプライバシーが守られていない時がある
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を言える入居者については自己決定できるよう働きかけているが、すべての入居者が希望を言えるような環境作りが出来ているとは言えない
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先されがちになっている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護計画で服を選ぶことになっている入居者が複数いるが、毎回は実施できていない
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回昼食づくりを実施し、職員と入居者が一緒に調理し、食事を楽しんでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時全員分の食事・水分摂取量を記録している。毎週水曜日体重測定実施している。体重減少があれば対応策を立てて実施している。ムース食や粥ゼリー等嚥下状態に応じた食事を提供している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。歯科医・歯科衛生士の居宅療養管理指導利用している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録している。排泄パターンを掴むのは難しいが、自立支援を行い日中オシメ使用せず排泄できる入居者が増えた
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べている入居者がいる。全ての入居者に水分摂取を促している。便秘時は緩下剤使用している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴曜日が決まっているため希望には添えていないが、機械浴やリフト浴使用や入浴剤の使用等、個々の身体状況に応じた入浴が出来ている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間居室から入居者が何度も出て来る。居室の環境が落ち着かないのではないかと推測される
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局の居宅療養管理指導利用し、一包化等薬を管理している。薬の変更などは、連絡ノートで情報を共有している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する力に応じて家事(テーブル拭き・食器洗い・洗濯たみ・お膳拭き)等を行うことで役割意識を持ってもらい生活にメリハリができるよう支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で遠方への外出は出来ていないが、敷地内散歩は出来ている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失のこともあり、原則金銭は所持してもっていない
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成し郵送している。家族の都合もあり、電話の支援はできていない
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた展示品や装飾品を飾っている。トイレは分かりやすく表示している。ジアリーノ設置しウイルス感染対策をしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥日当たりの良い場所にソファを置き、人気スポットになっている。自分で動ける入居者は好きな場所に移動して過ごしている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇がある入居者が数名いる。タンスや家具は使い慣れたものを持って来ている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーである。廊下・風呂場・トイレ等必要な場所に手すりがある。ユニット間は自由に行き来できるようになっている